

単元名 異文化に興味・関心を持つ

1. 単元の目標・ねらい(題材設定の理由など)

5年生で実施する「L I F E V 言語の違いを越えて世界を学ぶ」では、英語を使って世界の人々とコミュニケーションをはかり、自分の価値観を揺さぶるような異文化との交流体験を持たせることをねらいとして1年間の学習を進める。

1年間の学習のプロローグにあたるこの単元では、「L I F E V 言語の違いを越えて世界を学ぶ」の学習活動の概要と、この学習に取り組む意義やねらいについて概説する。1年間の活動を意欲的に継続させるためにも、動機付けにあたるこの段階の活動の意味は大きい。

各クラスに1名、広島大学より留学生を招き、自分の出身文化について講演してもらう。講演の前の授業では、生徒が留学生の文化について(Target Culture ; 以下TC) どれほどの予備知識や興味関心があるかを調査して、留学生に伝えると講演の内容が組み立てやすいであろう。調査時には、TCと日本のつながりについて考えさせるよう留意する。

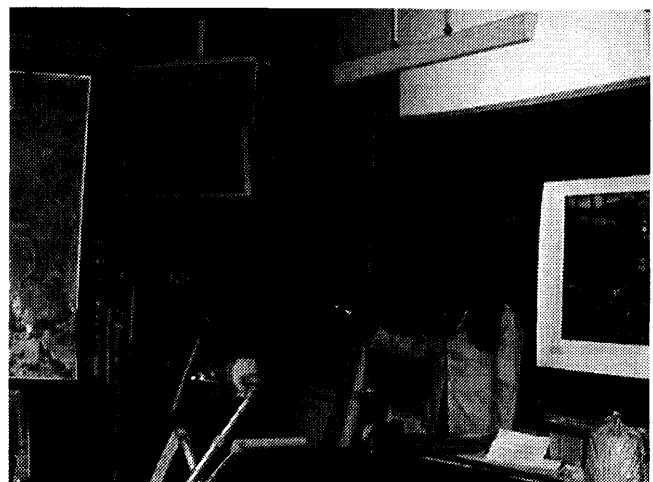
講演は英語で行う。英語のネイティブスピーカーでない場合、生徒にとっては Varieties of English を体験する、非常によい機会になる。生徒が話す英語も完璧ではないが、コミュニケーションは双方の意欲と努力で支えられることを実感させたい。

講演の途中や最後に、講演者に英語で質問をさせる。英語の授業で外国人指導助手との授業で何度も経験しているので、周りの生徒と考えさせる時間を与える等、過度なプレッシャーがかからないよう配慮して、成功に導きたい。

最後にはアンケートの記入をさせ、次の探求活動のためのグループ分けの資料として活用する。またお礼の言葉を付箋紙に書かせて回収し、台紙に貼って、講演してくれた留学生に送る。

この単元と次の単元での活動は、興味関心を同じくする5人程度のグループ単位で行なうことを予定している。グループ分けは、講演についてのアンケートの解答内容を元に、教師がグループ分けの案を提示し、探求活動への仮のテーマを付す。それを元に、活動が進んでいく。1学期末にはそれまでの学習の成果をクラスで発表する活動を行うことも予定していることも説明しておく、生徒が自分たちの学習活動の見通しが立てられてよいであろう。

探求テーマの設定時には、指導者の役割が重要である。このテーマが今後のグループ活動の求心力となり得るか、プレゼンテーションの要項に対応しているか、という視点を大切にしたい。



〔留学生の講演，留学生との交流〕

## 2. 評価の方法・観点

### (1). 異文化への関心(交流前調査)

最初の授業でTCと日本が現在・過去・未来においてどのような関係があるか、考えさせ、アンケートに自由記述形式で回答させる。

①生徒の文化理解は、事物への興味を中心か、思想・行動への興味もあるか。

②留学生の講演について、どのような期待を持っているか。

プレゼンテーション活動に向けて、各グループ内で発表内容にどのように一貫性を持たせるかを話し合わせ、話し合った要点を記録させ、文化理解を深めていく様子を把握する。

### (2). 探求活動への意欲・態度 (交流後調査)

留学生の講演を聴いて、興味・関心を持ったことを調査し、探求活動のグループ分けの参考資料とする。その後のグループ活動においては、プレゼンテーションで求められていることも視野に入れつつ、探求活動をどのように進めるか計画を立てる。探求活動のテーマ決定について、以下の3つの観点で考えさせたい。

①グループの構成員の興味・関心のある内容が、グループのテーマのもとに一貫性をもって結びついているか。

②自分たちとTCの関わりを意識しているか。

③調査の方法や計画には見当をつけているか。

提出された書類は、記述が表面的なもので終わっているところには、積極的に話し合いに介入し、テーマを絞り込む助けをする。



[Webを利用した探究活動]

3. 単元計画 1. 異文化に興味・関心を持つ (配当時間計 4時間)

題目 (配当時間)	学習内容	指導上の留意点
1. ガイダンス (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「L I F E V 言語の違いを越えて世界を学ぶ」の学習活動の概要と、この学習に取り組む意義やねらいについて、ハンドアウト・ワークシートをもとに概説する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の留学生を招いた活動を紹介し、その後自分たちで探求活動を行い、発表活動に発展させることを紹介する。</li> </ul>
2. 講演 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広島大学で学ぶ留学生に、それぞれの出身文化について英語で講演してもらう。</li> <li>・生徒は講演の内容について質問する。</li> <li>・講演の内容について、興味・関心を持ったことを書かせる。</li> <li>・留学生が講演するときに、どのように聴衆を引きつけようとしていたか観察させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回のアンケートで生徒の知っていること、知りたいこと、についてあらかじめ講演者に伝えておく。</li> <li>・留学生に質問するときには、プレッシャーが軽減されるようにグループで相談する時間を与える。</li> </ul>
3. 探求・表現活動のグループ立ち上げ (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演に対する感想を分析し、生徒の興味関心にそってテーマがまとまるように、教師がグループのメンバーを決める。クラスを8つ程度に分ける。</li> <li>・1学期の残りの期間の活動計画を確認する。</li> <li>・グループに分かれて、               <ol style="list-style-type: none"> <li>①テーマを決める</li> <li>②調べる内容を柱立てする。</li> <li>③グループで役割分担をする。</li> </ol> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ分けについて、こちらの意図と生徒の希望があわない場合、生徒に申し出させ、ケースに応じてグループの変更などを指示する。</li> <li>・テーマは制限時間で発表できそうなくらいに焦点化されているか。</li> <li>・グループ代表、記録係、資料保管係、手紙係等。</li> </ul>

評価の観点と方法	教科学習とのつながり など
<p><b>【興味関心】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化に対する理解は事物中心か、思想・行動も理解しようという姿勢が見られるか。</li> <li>・異文化と日本とのつながりを意識しているか。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(記録分析)</p>	<p>英語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し手の意向を理解する能力。</li> <li>・聞いた内容について質問したり、話し手と積極的にコミュニケーションをはかろうとする態度。</li> </ul> <p>政治経済</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代における政治・経済・国際関係などについて客観的に理解できる。</li> </ul>
<p><b>【関心・意欲・態度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講演を聴いて、異文化に対する興味関心が深まったか。</li> <li>・講演の内容や提示方法について、自分たちのプレゼンテーションに結びつけて観察できているか。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(記録分析)</p>	<p>現代社会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代世界における文化の多様性・複合性に気づき、日本の生活文化や伝統を意識しつつ、異なった文化への理解を深める。</li> </ul> <p>地理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の人々の生活・文化に関する地域的特色とその動向を、自然環境や社会環境に関連して理解できる。</li> </ul>
<p><b>【探求活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構成員各々の興味関心がグループのテーマのもとに一貫性を持ってまとめられているか。</li> <li>・自分たちとTCの関わりを意識しているか。</li> <li>・調査活動の方法や計画に見当をつけているか。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(構想案の分析)</p>	<p>歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の歴史における各文化圏の特色について理解できる。また、現代世界の基本的な課題を歴史的視点から考察できる。</li> </ul>